

第3章 基本理念と目標

1 基本理念

スポーツ元気都市さっぽろ

— スポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元気に —

札幌は、人口190万人を超える大都市ですが、郊外には豊かな自然があり様々なスポーツに親しむことができます。特に、冬季間は降雪量が6m近くなり、ウィンタースポーツも楽しむことができます。これら札幌ならではの環境をいかし、我が国初の冬季オリンピックを開催するなど、様々な国際大会を誘致し、スポーツを通じたシティプロモートや国際交流に力を入れてきました。近年では、プロスポーツチームの本拠地にもなり、スポーツを通じて札幌市民としての誇りや一体感も生まれてきています。

一方で、市民のスポーツ実施率は徐々に向上してきてはいるものの、未だ50%に満たない状況や、子どもの運動機会の減少に伴う体力の低下にも見られるように、恵まれたスポーツ環境が十分活用されているとは言えません。

今後は、より一層、市民誰もがスポーツに親しめる環境を整えるとともに、スポーツ基本法の理念を踏まえ、札幌市における市民自治の推進や、活力と創造力あふれるまちづくりのために、スポーツを通じて地域コミュニティを醸成し、札幌の創造性を育み、経済の活性化に寄与していくことが求められています。

これらを踏まえ、札幌市スポーツ推進計画の基本理念として、スポーツを通じて市民が、地域が、さっぽろが元気になる「スポーツ元気都市さっぽろ」を目指すこととします。

2 3つの目標

本計画の基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」を実現するため、次の3つの目標を定めます。

目標1 スポーツを通じて市民、誰もが元気に

市民、誰もが生涯にわたりスポーツを通じて、
健康や生きがいを得る機会を保障する。

スポーツ元気都市さっぽろの実現のためには、市民自らが積極的にスポーツに関わり、親しむことが必要不可欠です。

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であり、市民が年齢や体力、経験、目的の違いに応じて主体的にスポーツ活動を行うことができるように、行政をはじめとする様々な団体が協働しながら、ソフト面、ハード面における必要な措置を講じていきます。

本計画の目標1は、市民の誰もが生涯にわたって、スポーツを通じて、健康や生きがいを得る機会を保障することとします。

目標2 スポーツを通じて地域が元気に

スポーツを通じて、人と人とのつながりや、
地域コミュニティの絆を育む。

スポーツは、人々がその居住する地域において、主体的に協働することにより身近に親しむことができるようにするとともに、これを通じて、当該地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進されなければなりません。

札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、「創造的な活動により、活力あふれるまち」を基本目標に挙げており、スポーツからつくり出された人と人との交流がまちづくりに発展し、まちの活性化へとつながっていくことを目指しています。

これらを踏まえ、本計画の目標2として、スポーツを通じて、人と人とのつながりや、地域コミュニティの絆を育むこととします。

目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元気に

環境等の特性をいかし、札幌らしいスポーツ文化を創造し、
まちの魅力を向上させる。

スポーツは、個人の身体と心の健康の維持や、地域コミュニティの醸成のために大切であるばかりでなく、札幌の気候風土や環境の特性をいかした、札幌らしいスポーツ文化を創造することによって、札幌のまちの魅力を国内外に発信していくことが可能になると考えます。

札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、「文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまち」、「市民一人一人が魅力を再認識し発信するまち」を基本目標に挙げています。

スポーツを、国内外の多くの人々を集めることができる魅力的な資源として、観光振興や国際交流などの様々な分野でいかし、さらに、食や観光など様々な産業分野と結び付けることで、新たな付加価値を生み出し、さっぽろ全体に賑わいと活力を生み出していくことを目指していきます。

平成 18 年（2006 年）には、「創造都市宣言」を行い、「創造都市さっぽろ」を都市経営戦略の大きな柱として掲げ、シティプロモートを展開しています。スポーツも、他の施策との連携により、札幌のまちの魅力発信の一翼を担っていきます。

これらを踏まえ、本計画の目標 3 として、環境などの特性をいかし、札幌らしいスポーツ文化を創造し、まちの魅力を向上させることとします。

3 成果指標と目標数値

スポーツ元気都市さっぽろを実現するために、3つの目標ごとに具体的な成果指標を設定し、その目標数値を次のとおり定めます。

	成果指標	設定の考え方	現状値 (平成 24 年度)	目標値 (平成 34 年度)
目標 1	スポーツ実施率	市民のスポーツ実施状況を示す指標	41.2%	65.0%
	ウィンタースポーツ実施率		11.7%	25.0%
目標 2	各区で実施するスポーツイベントの参加者数 ¹⁷	地域におけるスポーツの機会を示す指標	31,522 人	50,000 人
目標 3	計画期間中に新たに開催する大規模な全国大会や国際大会の大会数 ¹⁸	観光や経済への波及効果をもたらす機会を示す指標	—	10 大会

¹⁷【各区で実施するスポーツイベントの参加者数】各区で主催するイベントの他、共催・出賞しているイベントの参加者数を含む。

¹⁸【計画期間中に新たに開催する大規模な全国大会や国際大会の大会数】単一種目であるか複数種目であるかを問わず、参加人数として選手・役員・観客を合わせて数千人以上の規模の大会を対象として、計画期間中の実大会数とする。

第4章 目標の達成に向けた方針と施策

1 6つの方針と15の基本的施策

第3章で掲げた3つの目標を達成するため、6つの方針と15の基本的な施策を定めました。

図表 23 札幌市スポーツ推進計画の施策体系

3つの目標		6つの方針		15の施策	
目標1	スポーツを通じて 市民、誰もが元気に	1	四季を通して、誰もが気軽に スポーツにふれられる環境を つくります	1	施設利用やサービスの情報を充実させます
				2	ウインタースポーツを楽しむ機会を充実させます
				3	トップスポーツやアスリートと身近にふれあう機会を増やします
		2	ライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や 生きがいを得る機会をつくり ます	4	子どもがスポーツを体験できる機会を充実させます
				5	高齢者が気軽にスポーツを楽しむ機会を充実させます
				6	障がい者のスポーツによる交流を支援します
				7	スポーツに親しむ機会の少ない人の活動を増やします
目標2	スポーツを通じて 地域が元気に	3	スポーツを通じて人と人との ふれあいの機会をつくります	8	家族でスポーツを楽しむ機会をつくります
				9	スポーツに参加する人同士のふれあいの機会をつくります
		4	地域で身近にスポーツに親し める機会を増やし、地域コ ミュニティの醸成につなげま す	10	地域のスポーツ活動の機会を充実させます
				11	地域に開かれたスポーツクラブを育成、支援します
目標3	スポーツを通じて 「さっぽろ」が元気に	5	豊富なスポーツ資源をいかし て、交流人口の増加につとめ ます	12	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します
				13	豊かなスポーツ環境をいかして、スポーツツーリズムの推進を図ります
		6	札幌の資源をいかしたスポー ツ文化を醸成し、産業を活性 化させます	14	札幌の資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します
				15	スポーツをいかした産業への取組を支援します

次ページからは、施策ごとに、具体的な事業展開や、実施する取組・事業を掲載します。

従前の札幌市スポーツ振興計画の事業を引き続き実施するほか、新たに必要となる事業については新規事業として掲載しています。

また、事業の具体化にあたって、今後、更に検討を重ねる必要がある事項については、「今後検討を要する取組」としています。

目標1 スポーツを通じて市民、誰もが元気に

方針1 四季を通して、誰もが気軽に
スポーツにふれられる環境をつくります

札幌は、春夏秋冬の季節の変化が鮮やかな都市です。大都市でありながら、郊外には豊かな自然があります。冷涼な夏は心地よくスポーツを楽しむことができ、雪が豊富に降る冬はウインタースポーツの魅力に溢れています。

また、多くの国際的・全国的な規模のスポーツ大会が開催されているとともに、プロ野球をはじめとするトップスポーツチームがこの街をホームタウンとして活動しており、四季を通して、日常的にトップスポーツの試合観戦を楽しむことができます。

このように豊富なスポーツ施設や豊かな自然、身近にトップスポーツがあることをいかして、市民誰もが、様々な形で気軽にスポーツにふれられる環境をつくります。



施策1 施設利用やサービスの情報を充実させます

スポーツをしている人や、これからしてみたいと思っている人が欲しい情報を探しやすいようにすることはもちろん、これまでスポーツに興味のなかった人を惹き付ける魅力的な情報発信が重要になります。

施設の利用方法や大会、イベント等の情報を手軽に入手できるようにするため、公式ホームページや広報紙を利用者視点から見直したり、パブリシティ¹⁹を積極的に活用するなど、様々な広報媒体を活用しながら、スポーツ施設やイベントに関する情報を細やかに提供します。

主な事業展開

公式ホームページや広報紙の充実

公式ホームページや広報紙を利用者視点から見直すとともに、パブリシティを積極的に活用し、積極的に情報発信を行います。

観光関連サイトやパンフレットの充実

さっぽろの観光情報サイト「ようこそさっぽろ」やメールマガジン、観光文化情報ステーションに、スポーツ施設やスポーツイベント等の情報を積極的に掲載し、市内外の方が手軽に情報を入手できるようにします。

出前講座やさっぽろ市民カレッジの実施

行政からの情報提供と、対話によるまちづくりの幅広い担い手の育成を目指して、市民の学習の機会を提供します。

今後検討を要する取組

- ・ ICT²⁰の活用による情報発信とサービスの充実
- ・ 施設利用や情報発信の多言語化

¹⁹ 【パブリシティ】報道機関にニュース素材を提供し、報道機関の取材、報道を通じて、市民に対して間接的に行う広報活動。

²⁰ 【ICT】Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略。情報通信技術を表すITに、コミュニケーションの概念を加えた言葉。市民がネットワーク上でスポーツに関する情報を共有し、友人や知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好等のつながりを通じて新たな人間関係を生み出す場を提供する。

施策2 ウィンタースポーツを楽しむ機会を充実させます

札幌の特色あるスポーツ文化であるウィンタースポーツを積極的に推進するため、誰もが気軽に楽しむことが出来るウィンタースポーツの普及を進めるほか、市民のスポーツ大会への参加費用の助成やスキー用具を揃えるための支援を行ったり、スキージャンプ等のウィンタースポーツの競技大会を継続的に開催支援するなど、市民が楽しくウィンタースポーツを実施したり、観戦したりできる環境づくりを行います。

主な事業展開

カーリング普及事業

通年型施設のオープンを機に、カーリングを幅広い世代が楽しむことができる生涯スポーツとして普及させるとともに、観光客が気軽にカーリングを楽しめる機会をつくり、競技人口の増加や観戦者の拡大を図ります。

ウィンタースポーツキャラバン

地域の公園等に用具や指導者を配置し、子ども達に雪遊びやウィンタースポーツの体験の機会を提供し、冬季に屋外で遊ぶ機会が減っている子ども達に、ウィンタースポーツに親しむ習慣づくりを行います。

さっぽろっこスキーリサイクル

スキー学習の実施に伴う保護者の負担の軽減を図るため、市民からスキーセットの提供を受け、希望する幼児や児童、生徒に提供します。

大通公園ウィンタースポーツフェスティバルの開催支援

さっぽろ雪まつりの残雪を有効活用して、市の中心部である大通公園に、誰もが気軽にウィンタースポーツや雪遊びを楽しめる空間をつくり、札幌の冬の魅力を発信するとともにウィンタースポーツの振興を図ります。

ウィンタースポーツ競技大会の開催支援

市民体育大会をはじめ、札幌発祥のウィンタースポーツであるスノーホッケーやスキージャンプ、クロスカントリー等の競技大会を、継続的に開催支援します。

今後検討を要する取組

- ・ ウィンタースポーツの活性化

施策3 トップスポーツやアスリートと身近にふれあう 機会を増やします

トップレベルの選手の技やスピードを間近に体験することで、人は感動やスポーツへのあこがれを抱き、スポーツに対する興味、関心が高まります。

また、地元出身のアスリートを支援することで、将来的にアスリートが地域に戻って選手の育成に携わるなど、トップアスリートと地域の好循環を生み出す土壌となります。

スポーツのすそ野を広げ、競技人口の拡大や観戦文化を醸成させるために、市民がトップスポーツをみることを積極的に推進するとともに、地域や学校で市民がトップスポーツチームやアスリートとふれあう機会を増やします。

主な事業展開

オリンピックズキャラバン事業 <新規事業>

スポーツによる地域の活性化に取り組んでいる団体にオリンピック経験者等のアスリートを派遣し、体験会や講習会を実施し、スポーツ機会の提供と充実を図るとともに、地域の活性化を促します。

トップアスリート育成支援補助事業 <新規事業>

札幌出身のアスリートを育成するため、競技者やスポーツ団体に対して、選手や指導者の育成、大会の開催や選手派遣などの事業への支援を行います。

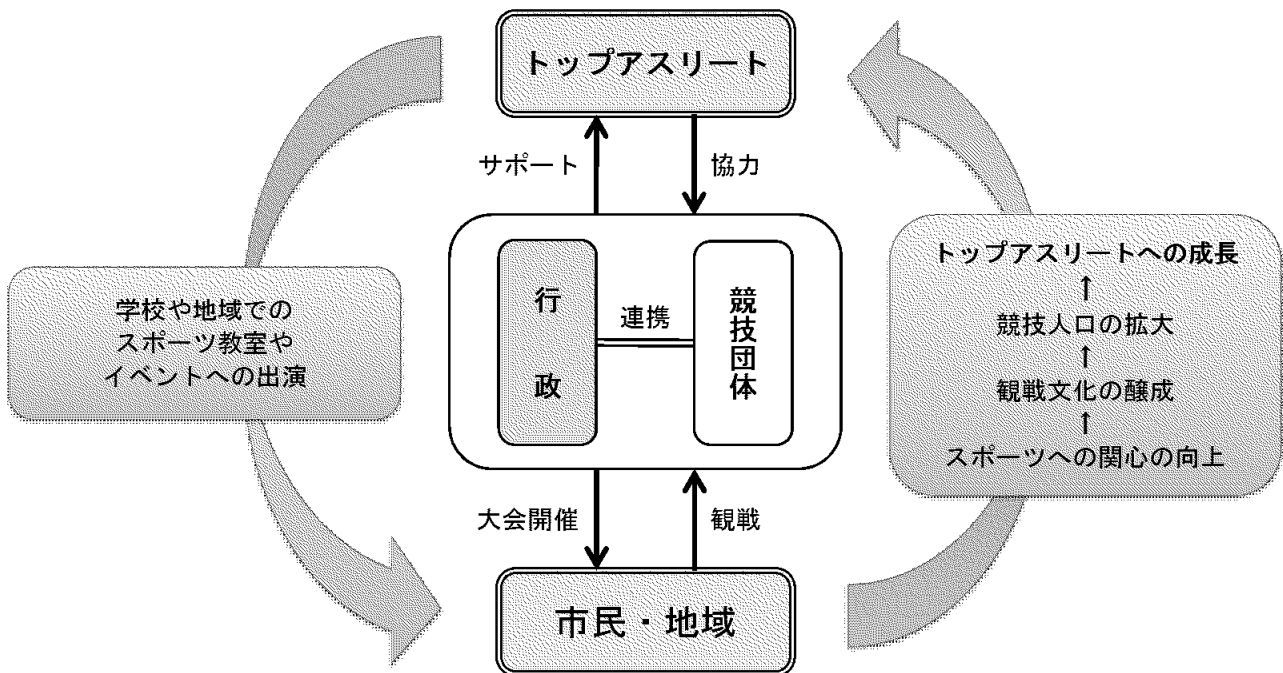
プロスポネットSAPPOROによるプロスポーツチームとの連携

札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチームとの連携・協力により、観る文化の醸成をはじめ、地域やアマチュアスポーツ団体への指導、シティプロモートやスポーツツーリズムの推進を図ります。

今後検討を要する取組

- ・ 競技団体による地域や学校への指導者の派遣
- ・ アスリートの人材バンクとの連携
- ・ アスリートの競技活動のサポート

図表 24 トップアスリートと地域の好循環（概念図）



プロスポネットSAPPORO

「スポーツの力でまちを元気に！プロスポーツのあるまちSAPPORO」

札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチーム（北海道日本ハムファイターズ・コンサドーレ札幌・レバンガ北海道）と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めていくため、平成25年（2013年）3月に「プロスポネットSAPPORO」を設立しました。

3つのプロスポーツチームと札幌市が持つ力を結集し、より高いレベルで目標の実現を目指します。



協力内容

- ・スポーツのすそ野の拡大、観る文化の醸成
- ・スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- ・シティプロモートやスポーツツーリズムの推進

目標1 スポーツを通じて市民、誰もが元気に

方針2 ライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります

幼少期のスポーツ体験は、その後のスポーツ活動に大きく影響します。

大人になってからも、就職や結婚、出産等の人生の節目や、体力の低下、ケガや障がいによって、スポーツから離れてしまう人が多くいます。

子どもや高齢者、障がいのある方をはじめ、ライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。



施策4 子どもがスポーツを体験できる機会を充実させます

子どもの頃のスポーツ経験は、健康な身体と豊かな心を育てるとともに、その後のスポーツ活動や基礎的な体力、競技力の向上に大きく影響します。

学校や地域等の身近な場所で、子どもがウインタースポーツや雪遊びを楽しめる事業を実施したり、地域に潜在しているスポーツ指導者を掘り起こし、中学校・高等学校のスキー授業にインストラクターとして派遣するなど、学校と地域が一体となって、子どもの頃からスポーツを体験できる機会を増やします。

主な事業展開

地域スポーツマスター活用事業 <新規事業>

中学校スキー学習に地域の指導者を派遣し、スキー学習の実施を維持するとともに、区や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域コミュニティの活性化を図ります。

子ども元気アップ事業 <新規事業>

未就学児とその保護者を対象に、運動習慣の重要性を啓発するパンフレット等を配布します。また、家庭でもできる運動遊びプログラムの提供を目的に運動遊び教室や体力測定イベントを実施します。

国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業

中学生を対象として、札幌市の姉妹都市（ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広域市）との相互のスポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱ききっかけを生み出します。

児童会館中・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施

市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中・高校生の放課後の活動場所を確保し、スポーツ等を通じた健全育成と、異年齢、異世代の交流の場を作ります。

「子どもの体力向上」についての研究開発事業

児童や生徒の体力・運動能力調査の実施等により、札幌の子どもたちの体力について分析をするとともに、体力向上に向けた方策を検討します。

施策5 高齢者が気軽にスポーツを楽しむ機会を充実させます

健康を維持・増進し、生活習慣病の予防や介護予防につなげていくためにはスポーツは非常に有効です。また、高齢者が社会の中で元気に活躍し、生きがいを得る機会をつくることにもつながります。

利用しやすいスポーツ施設の環境整備や健康づくりセンターの積極的な活用、高齢者を対象とした大会への選手派遣、老人クラブ等への支援などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実させます。

主な事業展開

健康づくりセンターにおける健康づくり事業

健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

地域の健康づくり推進事業

地域に健康づくりサポーター等を派遣して、市民の自主的な健康づくりを推進します。また、ウォーキングマップの作成やウォーキング推進キャンペーンの実施により、運動習慣を定着させます。

全国健康福祉祭「ねんりんピック」派遣事業

スポーツや文化等の交流大会、健康・福祉に関する各種イベントなどが開催される高齢者の総合的な祭典に選手を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加の促進、生きがいの高揚を図ります。

老人クラブへの活動支援

健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている単位老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う札幌市老人クラブ連合会の活動を支援します。

施策6 障がい者のスポーツによる交流を支援します

障がいのある方の運動機能の維持・回復のためには、スポーツは非常に有効な手段であり、障がいのある方の自立を促すとともに、障がいのない方との相互理解を生み出します。

障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめるようにするために、利用しやすいスポーツ施設の環境整備や、障がい者スポーツ団体に対する支援などを通して、障がいのある方のスポーツの機会を確保し、障がいのある方と障がいのない方のスポーツによる交流を支援します。

主な事業展開

スポーツ施設のバリアフリーの実施

施設の改修に併せて、スロープや手すり、エレベーターの設置等、ハード面のバリアフリー対策を行うとともに、点字やサイン等の情報のバリアフリー対策を実施し、高齢者や障がいのある方が施設を利用しやすくします。

健康づくりセンターにおける健康づくり事業 <再掲>

健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

札幌市障がい者スポーツ大会（すずらんピック）等のスポーツ大会の開催費用や、市外で開催される大会への選手の派遣費用等の一部を助成し、障がいのある方のスポーツ大会への積極的な参加を促します。

今後検討を要する取組

- ・ スポーツ施設における障がいのある方の受入体制の充実
- ・ 障がいのある方のスポーツ大会への参加の促進

施策7 スポーツに親しむ機会の少ない人のスポーツ活動を 増やします

市民のスポーツ活動のすそ野を広げるため、就職や結婚、出産・子育てといった人生の節目でスポーツから離れてしまった人や、スポーツに親しむ機会が少ない人を対象としたスポーツ活動の促進キャンペーンや、市民向けのスポーツ体験事業を実施したり、身近な地域で、楽しくウォーキングをすることができるようなコースを設定する等、日頃スポーツに親しむ機会の少ない人のスポーツ活動を増やします。

主な事業展開

スポーツ活動促進キャンペーンの実施 <新規事業>

就職や結婚、出産・子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味が少ない人を対象として、スポーツ活動を促進するキャンペーンを展開し、スポーツ実施率を向上させます。

「さっぽろスポーツデー」の創設 <新規事業>

世代や競技レベルにとらわれず、地域住民が誰でも気軽に参加できるスポーツイベントとして、地域スポーツクラブや競技団体等と連携しながら、市民向けの様々な事業を展開します。

健康づくりセンターにおける健康づくり事業 <再掲>

健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

身近な地域におけるウォーキングコースの設置

市民と共に、豊かな自然や魅力あふれる街並みを巡ることができるウォーキングコースを設定し、マップを作成したり、より楽しくウォーキングを続けられるようなコース整備をするなど、身近な地域で気軽にウォーキングを楽しめるようにします。

スポーツ振興基金助成金

広く市民を対象としてスポーツ大会や講習会を実施する団体に対して助成金を交付し、市民のスポーツ活動の普及振興を図ります。

今後検討を要する取組

- ・スポーツ施設における託児サービス

目標2 スポーツを通じて地域が元気に

方針3 スポーツを通じて人と人とのふれあいの機会をつくります

核家族化や単身世帯の増加、個人のライフスタイルの多様化等に伴い、人間関係の希薄化が問題視されている一方で、災害等を機に、人と人とのつながりの重要性が見直されています。

最も小さなコミュニティ単位である「家族」で何かを一緒にすることは、人と人とのつながりを強める大切な要素になります。さらに、スポーツ観戦やボランティア等、他人同士が共通の目的を持つことで、様々な人と人との結びつきを生み出します。

スポーツをきっかけに、家族をはじめ様々な人と人とのふれあいの機会をつくります。

施策8 家族でスポーツを楽しむ機会をつくります

家族はコミュニティの最小単位です。家族で一緒にスポーツを楽しむことはもちろん、スポーツをしている家族を応援したり、共通の話題を持つことによって、さらに家族がふれあう機会を生み出すことができます。

家族の絆をより深めていくために、子どもと保護者を対象とした事業や、親子で参加できる大会を実施する等、家族でスポーツを楽しむ機会をつくります。

主な事業展開

子ども元気アップ事業 <新規事業・再掲>

未就学児とその保護者を対象に、運動習慣の重要性を啓発するパンフレット等を配布します。また、家庭でもできる運動遊びプログラムの提供を目的に運動遊び教室や体力測定イベントを実施します。

ウインタースポーツキャラバン <再掲>

地域の公園等に用具や指導者を配置し、子ども達に雪遊びやウインタースポーツの体験の機会を提供し、冬季に屋外で遊ぶ機会が減っている子ども達に、ウインタースポーツに親しむ習慣づくりを行います。

施策9 スポーツに参加する人同士のふれあいの機会をつくります

スポーツは、選手同士やそれに携わるスタッフ、そして観客の心を一つにします。大会やイベントの開催を通して、多くの出会いを生み出し、そこから人と人とのつながりが生まれるように、参加者同士の交流の機会を設けます。

また、多くの市民が、地域のイベントやトップスポーツの試合、大会等の運営や指導等に携わり、ともに助け合うことができるよう、市民のボランティア文化の醸成をすすめます。

主な事業展開

市民健康づくりサポート事業

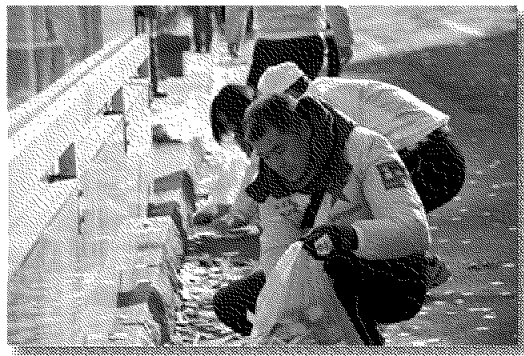
健康づくりに取り組む市民を対象に、相互の交流とウォーキング指導者としてのスキルを学ぶボランティア研修を実施し、研修終了後には、全区のボランティアが協力し「市民交流ウォーキング大会」を開催します。

国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業 <再掲>

中学生を対象として、札幌市の姉妹都市（ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広域市）との相互のスポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱くきっかけを生み出します。

今後検討を要する取組

- ・スポーツボランティアの育成と推進



目標2 スポーツを通じて地域が元気に

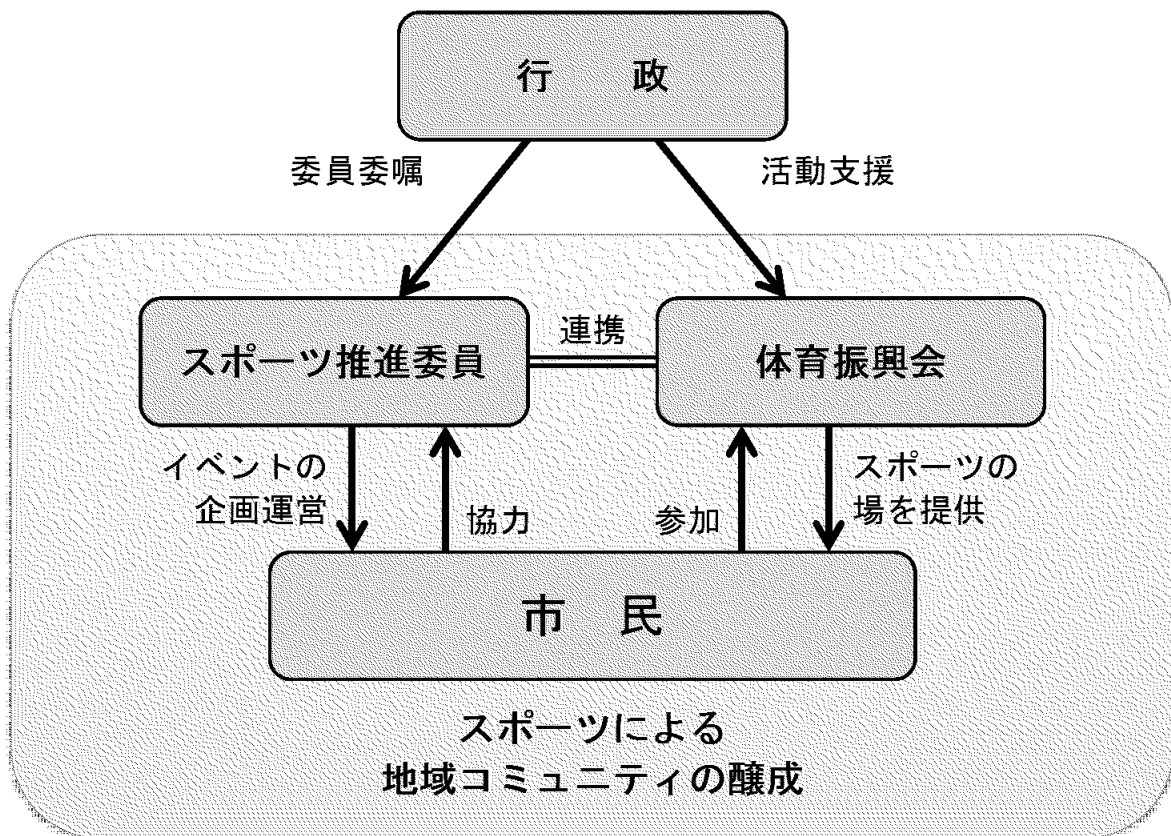
方針4 地域で身近にスポーツに親しめる機会を増やし、 地域コミュニティの醸成につなげます

地域コミュニティにおいて、地域の安全、安心の維持などの課題を解決するためには、地域ぐるみでの取組が大切になります。

そのためには、日頃からの地域住民主体の交流が不可欠です。スポーツは、地域の人と人とのつながりをつくる一つの手段として有効です。

地域で身近にスポーツに親しめる機会を増やし、地域の交流やコミュニティの醸成につなげます。

図表 25 スポーツによる地域のコミュニティづくり（概念図）



施策10 地域のスポーツ活動の機会を充実させます

地域への愛着を生み出し、住民同士のつながりを強めるため、スポーツ推進委員を積極的に活用し、施設や自然環境といった地域の特色をいかしたスポーツ活動を支援します。

また、市民が身近な地域でスポーツ活動を行うことが出来るよう、体育館や温水プールだけではなく、様々な場所や機会を利用してスポーツを推進していきます。

主な事業展開

スポーツ推進委員の活動促進

スポーツ大会やイベントの実施にあたり、スポーツ推進委員を積極的に活用するとともに、研修の実施や研究協議会への参加等により、地域スポーツの企画・運営のスキルアップを図り、活動を促進します。

オリンピックズキャラバン事業 <新規事業・再掲>

スポーツによる地域の活性化に取り組んでいる団体にオリンピック経験者等のアスリートを派遣し、体験会や講習会を実施し、スポーツ機会の提供と充実を図るとともに、地域の活性化を促します。

地域の健康づくり推進事業 <再掲>

地域に健康づくりサポーター等を派遣して、市民の自主的な健康づくりを推進します。また、ウォーキングマップの作成やウォーキング推進キャンペーンの実施により、運動習慣を定着させます。

今後検討を要する取組

- ・学校体育施設開放事業の自主管理校における地域住民への開放のあり方



施策1-1 地域に開かれたスポーツクラブを育成、支援します

市民が、身近な地域で、主体的にスポーツに親しむことができる機会を増やすため、体育振興会等の活動を促進させるとともに、活動拠点となる場づくりを検討するなど、地域スポーツクラブの育成を行い、支援します。

主な事業展開

地域スポーツにぎわい促進事業 <新規事業>

地域スポーツクラブとしての役割を担う体育振興会等の活性化を図り、地域スポーツのにぎわいを促進するため、競技団体やトップスポーツチーム等と連携した支援プログラムを検討・実施します。

今後検討を要する取組

- ・ 総合型地域スポーツクラブの活動拠点づくり



目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元気に

方針5 豊富なスポーツ資源をいかして、
交流人口の増加につとめます

札幌市は、冬季オリンピック競技大会を開催した大都市として世界的に有名です。オリンピック関連施設をはじめとして、一年を通して様々なスポーツを楽しむための施設が数多くあります。また、国際競技大会をはじめ多様なスポーツイベントも多数開催されています。さらに札幌出身のアスリートも多いなど、モノ、コト、ヒトにわたりスポーツ資源が豊富にあります。これらの資源があることが、札幌のまちの魅力にもつながります。

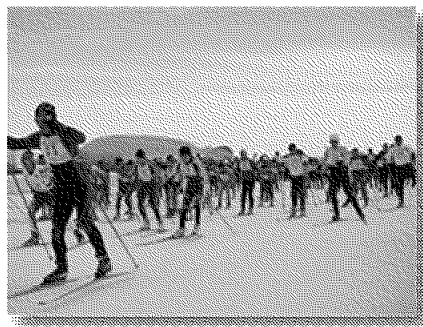
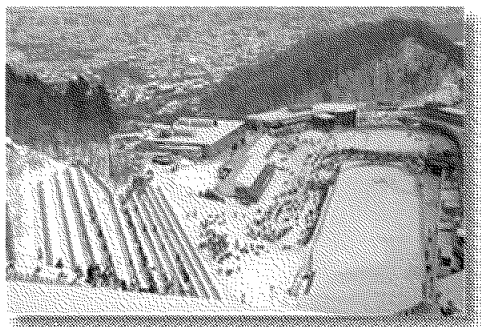
また、札幌は大都市の利便性と自然環境の豊かさに恵まれたまちです。また、高緯度に位置することから冬季は様々なウインタースポーツを楽しめる環境にあり、夏季は気温や湿度も低く、屋外スポーツをする環境に恵まれています。観光やコンベンション、ビジネスなどの来訪者にとって、都市文化にふれる楽しみばかりでなく、季節に応じて、手軽にスポーツを楽しめる環境は、札幌の大きな魅力と言えます。

平成32年（2020年）のオリンピック・パラリンピックの開催地として東京が決定し、その会場のひとつとして、札幌市が予定されています。

他に類のない大規模な国際競技大会の開催により、札幌市が世界中からの注目を受けるとともに、様々な国と地域から多くの人々が訪れることで、世界に対して札幌の魅力を伝える絶好の機会となります。また、スポーツの振興を通じて、国際平和への貢献と活力の創造にも寄与します。

これらの豊富なスポーツ資源の活用や大規模国際競技大会の開催によって、都市ブランドを更に高め、シビックプライドの醸成につなげていくとともに、国内はもとより世界に向けて札幌の魅力情報を発信し、交流人口の増加につとめます。

さらに、札幌の知名度の高さや数々の大規模国際競技大会の運営ノウハウ、スポーツに対する国民の情熱を最大限にいかし、昭和47年（1972年）以来となるオリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季大会の招致、開催に向けて、検討を行います。



施策12 国際大会やスポーツイベントを通じて 国内外へ札幌の魅力を発信します

全国大会や国際大会の開催にあたって、ホスピタリティ²¹を持った運営を心掛け、市民ボランティアや競技団体、学校や企業等が連携して、札幌全体が一体となった大会運営を行うことで、参加者やスタッフの満足度を向上させ、札幌の都市ブランドを高めます。

札幌市で開催される多くの大会やイベントを通じて、多様な国の人々との国際交流を進めるとともに、国内外へ札幌の魅力を積極的にPRし、シティプロモートを進めます。

主な事業展開

2017年アジア冬季競技大会の開催

競技団体や学校等と連携しながら、積極的な市民参加を促し、市民が一体となった大会運営を行います。ウインタースポーツの普及振興とともに、大会開催による経済効果等、市民が多くのメリットを享受できる大会とします。

2015世界女子カーリング選手権大会の開催

札幌ならではの特性をいかしたウインタースポーツの振興により、カーリングに対する市民の関心が高めるとともに、集客交流を通じて札幌市を国内外にPRします。

国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業 <再掲>

中学生を対象として、札幌市の姉妹都市（ポर्टランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広城市）との相互のスポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱くきっかけを生み出します。

今後検討を要する取組

- ・スポーツコミッション²²の設置
- ・オリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季大会の招致

²¹ 【ホスピタリティ】来訪者に対する、心のこもったおもてなし。

²² 【スポーツコミッション】大会誘致によるスポーツ振興や観光振興、地域経済の活性化を目指して、地方公共団体、民間企業、スポーツ団体等により構成される地域レベルの連携組織で、①国際スポーツ大会等のスポーツ関連イベントの誘致、②スポーツ合宿、会議の誘致、③大会開催、合宿等に対する協力、支援等を行う

施策13 豊かなスポーツ環境をいかして、 スポーツツーリズムの推進を図ります

観光客でも気軽に体験できるスポーツとして、歩くスキーやカーリングを積極的に活用したり、大倉山ジャンプ競技場やウィンタースポーツミュージアム、札幌ドームといったスポーツ施設、札幌マラソン等のスポーツイベントの運営を充実し、魅力を向上させて、集客力を増やします。

これらの豊富なスポーツ施設やイベントの活用や、トップスポーツチーム、他の道内自治体との連携により、国内外からの観光客やスポーツボランティアを呼び込み、スポーツツーリズムを推進します。

主な事業展開

スポーツ施設や競技大会によるスポーツツーリズムの推進

道外からの旅行客に向けて、札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境をPRし、スポーツを動機とした観光客の誘客を図ります。

カーリング普及事業 <再掲>

通年型施設のオープンを機に、カーリングを幅広い世代が楽しむことができる生涯スポーツとして普及させるとともに、観光客が気軽にカーリングを楽しめる機会をつくり、競技人口の増加や観戦者の拡大を図ります。

プロスポネットSAPPOROによるプロスポーツチームとの連携 <再掲>

札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチームとの連携・協力により、観る文化の醸成をはじめ、地域やアマチュアスポーツ団体への指導、シティプロモートやスポーツツーリズムの推進を図ります。

新中央体育館の建設

各種競技大会や市民利用のほか、トップスポーツや屋内イベント等での活用も可能な施設として、新たに中央体育館を整備します。

今後検討を要する取組

- ・スポーツコミッションの設置 <再掲>
- ・札幌ドームパワーアッププランの策定

目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元気に

方針6 札幌の資源をいかしたスポーツ文化を醸成し、産業を活性化させます

札幌の豊かな自然環境やスポーツ施設、トップスポーツなどの札幌の資源をいかしたスポーツ文化を醸成するとともに、スポーツ活動に伴う新たなサービスや製品の開発を支援し、関連産業の活性化につなげます。

施策14 札幌の資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

札幌には、豊かな自然や雪、食べ物、文化・芸術など、人々の心を惹きつける魅力的な資源がたくさんあります。

冬の雪かきや毎日の通勤・通学等を通して、暮らしの中で健康づくりを行う取組を実施したり、スポーツに様々な付加価値を持たせることで、スポーツを楽しむ人の活動を促進する等、まちの魅力を再発見し、札幌への愛着を生み出すことにつながるスポーツの楽しみ方を提供します。

主な事業展開

まちの魅力を再発見するウォーキングイベント等の実施

札幌市内の歴史的な施設や風景、スイーツ等、地域ごとに特色をいかしたコースを設定したウォーキングイベント等を実施し、市民が気軽にスポーツを楽しむことができ、地域の魅力を再発見する機会をつくります。

スポーツ活動促進キャンペーンの実施 ＜新規事業・再掲＞

就職や結婚、出産・子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味を薄い人を対象として、スポーツ活動を促進するキャンペーンを展開し、スポーツ実施率を向上させます。

今後検討を要する取組

- ・食など様々な付加価値を持たせたスポーツイベント
- ・雪かきなど冬の暮らしを通じた健康づくり
- ・従業員のスポーツ活動を積極的に支援する企業の公表

施策15 スポーツをいかした産業への取組を支援します

企業やトップスポーツチーム等と連携により、商店街の活性化を促すイベントの実施や、スポーツを活用した札幌ならではのビジネスの創出を支援するなど、スポーツをいかした産業への取組を支援していきます。

主な事業展開

スポーツイベントの実施による商店街等の活性化

企業やトップスポーツチーム等と連携し、商店街等でのイベント等で、スポーツに関連した商品の提供やPR等を行い、スポーツ関連商品の流通拡大や、トップスポーツの集客力向上を図ります。

スポーツを活用した札幌産業の活性化

札幌のスポーツ資源を活用した創造性の高いビジネスの創出を目指し、セミナーや交流会、企画コンテスト等を実施します。

第5章 計画推進のための取組

1 市民やスポーツ団体との協働

スポーツにより、市民や地域、さっぽろが元気になるためには、市民やスポーツ団体、企業等の主体的な活動や、積極的な協力が欠かせません。

本計画の取組を進めるにあたって、市民やスポーツ団体、大学、企業との協働で行います。

■行政

行政は、市民やスポーツボランティア、スポーツ推進委員等の地域の人材・団体を積極的に活用するとともに、体育振興会をはじめとする地域スポーツクラブ、競技団体やトップスポーツチーム、大学研究機関や民間企業と連携、協力しながら、競技の普及振興や地域・経済の活性化を進めていきます。

また、地域や学校等とスポーツ関係団体の間で相互に協力が必要な場合や、スポーツ関係団体だけでは解決できない課題の解決のためには、行政が積極的にコーディネート機能を担います。

■市民

個人のスポーツへの関わり方は多種多様です。

日常の健康の保持・増進から競技スポーツとしての活動まで、様々なレベルでスポーツを行うことや、感動や共感を求めてスポーツを見ること、国際競技大会や地域スポーツイベントの運営支援等スポーツボランティアの活動を通じてスポーツを支えることなど、様々な形でスポーツと関わるすることができます。

市民には、それぞれのやり方で主体的にスポーツに関わり、札幌のスポーツを支えていく原動力としての役割が期待されます。

■体育振興会とスポーツ推進委員

体育振興会等の地域スポーツクラブやスポーツ推進委員は、本計画における地域スポーツの振興のための重要な担い手として位置づけられます。

行政が実施する様々なスポーツ大会やイベントへの協力のみならず、身近な地域において、誰もがスポーツに親しめる機会を増やしたり、スポーツイベントの企画・運営を行うなど、スポーツを通じて地域コミュニティの絆を強めたりしていくために、相互に連携を図りながら、地域への積極的な働きかけを行っていく役割があります。

■札幌市体育協会及び競技団体

札幌市体育協会及び競技団体は、スポーツの普及促進や競技力向上、そしてスポーツ大会の誘致・開催のために重要な役割を担っています。

スポーツ少年団やクラブチーム等の活動は、幼少期から社会人に至るまでの市民のスポーツ活動の重要な場となります。活動場所や内容等について情報発信を進めながら、より市民が参加しやすい環境を整えていくことが求められます。

また、今後は、学校や地域と連携しながら、指導者の派遣を行ったり、人材の育成を図るなど、新たな役割が期待されます。

■トップスポーツチーム

札幌を本拠地として活躍するトップスポーツチームは、市民をはじめとする人々に「みるスポーツ」の機会を提供し、市民の感動や共感を呼び起こします。それは、するスポーツ、支えるスポーツを育て、人を動かす非常に大きなパワーを秘めています。

また、現在行っている種目に限定せず、スポーツを通じたまちづくりという目標を持ち、それぞれのチームが積極的に地域貢献活動等を行っています。

札幌市と連携し、チームの持つ知名度と競技力、指導力といったノウハウやネットワーク、選手の技能を活用しながら、地域のスポーツ振興と、それに伴う集客力の向上をはかり、スポーツツーリズムやシティプロモートといった経済への波及効果を生み出していくことが期待されます。

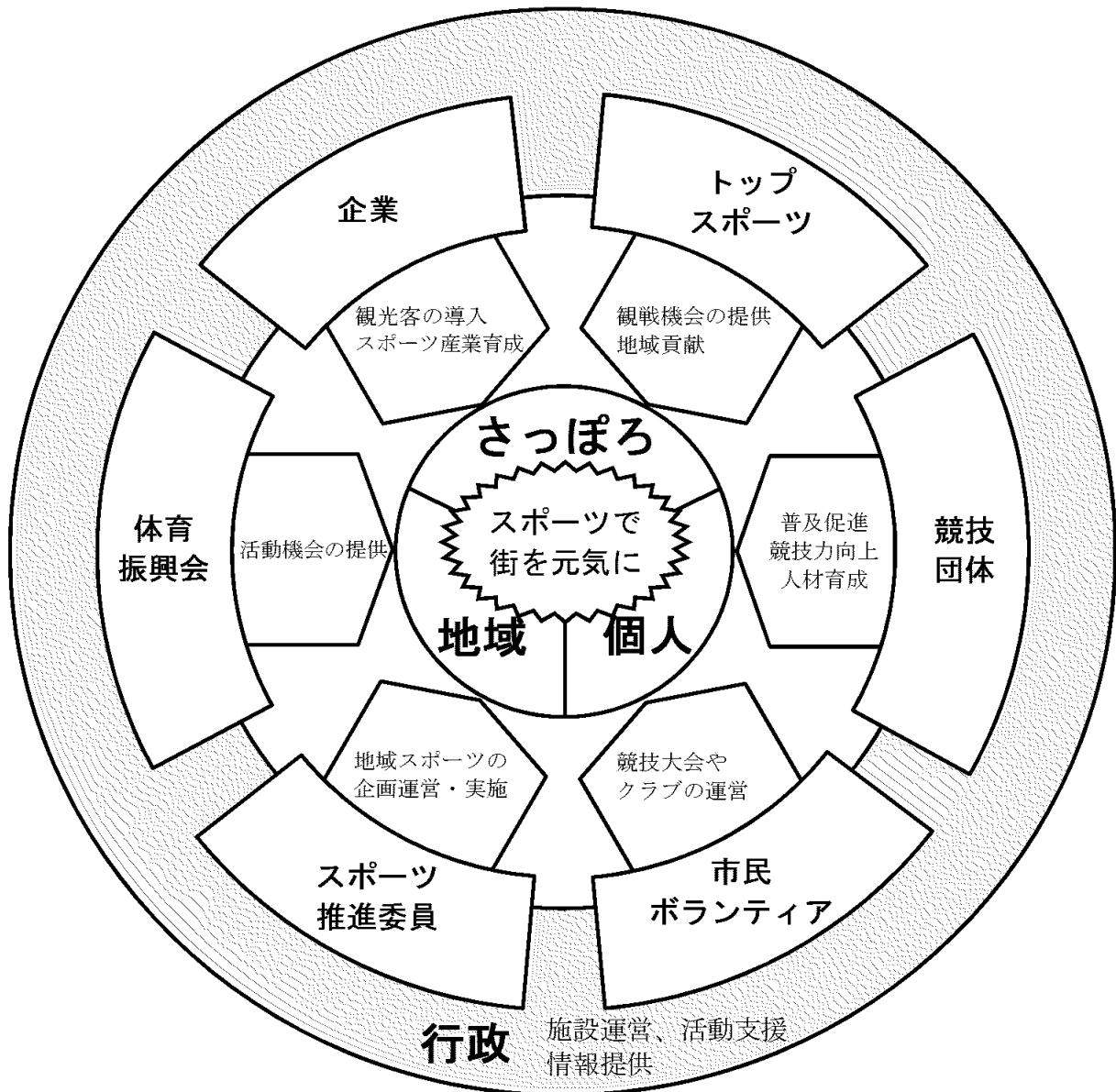
■企業

スポーツを通じた観光や産業の育成には、企業との連携は不可欠です。

企業は、イベント等においてスポーツを積極的に活用したり、新たなスポーツ関連商品・サービスの開発や実施を行うことで、経済の活性化を担います。

また、従業員がスポーツ活動を積極的に行うことができるような職場環境の整備や工夫を進めるとともに、保有するスポーツ施設を積極的に地域に開放するなどして、地域に根差した企業活動を行っていくことが期待されます。

図表 26 スポーツ推進のための協働の概念図



2 将来を見据えた施設のあり方や配置の検討

札幌市の将来人口は、平成 27 年（2015 年）頃をピークに減少していくと見込まれるとともに、年代別の構成についても、全体に占める 65 歳以上の高齢者の割合が、平成 32 年（2020 年）には約 3 割に達すると想定されています。

札幌市はこれまで、1 区 1 体育館 1 公的温水プールを基本方針としてスポーツ施設の整備を行うと同時に、全国規模の大会や国際大会の誘致や継続的な開催に向けて、各種競技スポーツ施設の整備や維持管理に努めてきました。また、学校体育施設の有効活用として、学校開放事業の実施・拡大を進めてきました。

特に、オリンピック関連施設については、札幌の貴重な財産であると同時に、ウインタースポーツの振興にとっても重要な役割を果たしています。

第 11 回オリンピック冬季競技大会開催の前後に建てられたスポーツ施設は、建設から 40 年以上が経過しており、今後は、老朽化に伴う修繕等に要する経費が急増していくとともに、今後 10 年～20 年の間に建て替えの時期を迎え、大きな財政負担が生じることが見込まれます。

今後の人口減少や超高齢社会への移行と、多様化するニーズに対応しながら、将来にわたって市民がスポーツに親しめる環境を維持していくためには、限られた予算の中で、適切な点検・保守や予防的な修繕・改修等を行う必要があります。

そこで、札幌市まちづくり戦略ビジョンにおける市有建築物の更新の考え方に基づき、スポーツ関係団体や札幌市スポーツ推進審議会からの意見等を踏まえながら、将来を見据えたスポーツ施設のあり方や配置、資産の有効活用について、民間施設の活用も含めて検討を行い、スポーツ施設の配置・活用計画をつくります。

3 進行管理と見直し

目標や方針に掲げた項目を着実に推し進めていくために、施策や事業の実施にあたっては、具体的な目標を立て、達成までの進捗状況を適切に管理していくことが必要です。

また、スポーツを取り巻く社会の変化に柔軟に対応し、その時々ニーズに応じていくためにも、計画内容は適宜見直しをしていく必要があります。

札幌市自治基本条例を踏まえ、本計画は、市民との協働により、計画の推進や見直しを行っていきます。

見直しにあたっては、札幌市スポーツ推進審議会による議論を行うとともに、利用者をはじめとする市民や、競技団体、トップスポーツチーム等の方々とともに考え、検討を行います。また、そのために、日頃から行政の取組や課題を積極的に発信していきます。

当該計画の計画期間は平成 34 年度（2022 年度）までですが、進捗状況の管理は毎年度行い、ホームページ等で公表します。

また、計画期間の中間年にあたる平成 29 年度（2017 年度）には、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

